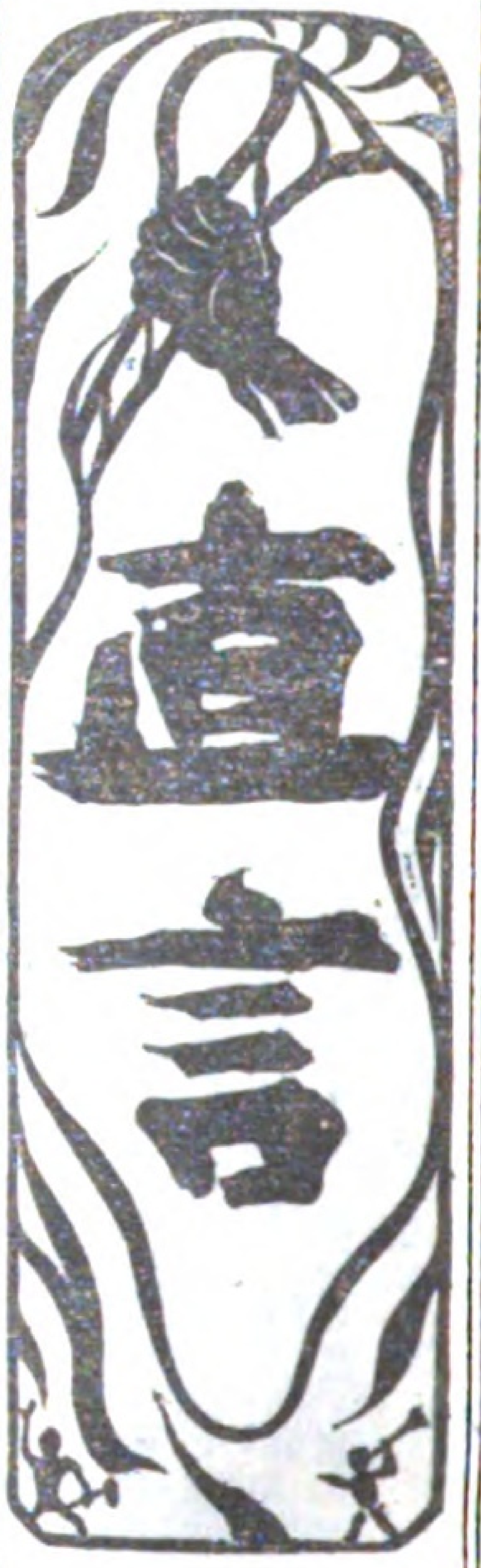

SOCIALISM ＝ ソーシアリズム ＝ 社會主義

社會主義は土地、資本、其他あらゆる生產機關の公有を主張する者なり

●禁黨の紀念

木下尚江

日本の社會主義運動史に記憶さるべき『五月二十日』は來れり、吾人同志が公然政治的團體を組織して自由の運動を試むる能はざることは、吾人に在りては言ふべからざるの遺憾にして、日本に取ては掩ふべからざるの恥辱なり、而して『五月二十日』は容易に忘却すると能はざる也、明治三十四年の此月此日、日本政府は社會民主黨の創立に對して禁止の嚴令を執行したるに非ずや、

爾來四星霜、而して吾人は此の間日本の思想界に於ける社會主義の發展の激甚なるとに驚歎せずんばあらず、暫く政府の壓迫を云々する勿れ、壓迫の日に益々甚しきは思想進歩の日に益々甚しきとの明白なる反證に非ずや、然れ共此の短日時間に於ける吾人同志の苦辛損失も亦た決して鮮少なりと云ふべからず、讀者乞ふ記者をして暫時一己の感想を叙述するとを得せしめよ、

日本に社會黨の到底勃興せざるべからざるは、日清戰爭の前後より識者の既に承認したる機運なりき、社會民主黨の創立は則ち此の暗々裡の機運に點火したりしに過ぎず、當時創立の任に當れるもの曰く片山潜君、曰く安部磯雄君、曰く幸德傳次郎君、曰く河上清君、曰く西川光二郎君、而して記者の不學短才を以て其の末班に參するとを得たるは是れ一生の光榮として誠に感激に堪へざる所也、

四年前の此月此日、記者は社會民主黨の幹事として同黨禁止の命令書を受領するの不幸を見たり、今や片山、安部、河上の三君は亞米利加の旅窓に在り、幸德、西川の二君は巣鴨の獄裡に在り、四年一日の如く碌々たるの記者をして、獨り此の澎湃たる新活動の波頭に起つて懷去望來の快に耽らしむ、哀歡胸に戰つて涙雨の如し、

若し夫れ吾人をして一己の痴情を述べしめなば、豈指を屈するに堪ゆべけんや、堺枯川君は先づ獄に行けり、幸德西川の二君は今獄に在り、平民新聞は遂に廢刊せり、全國に亙りて陰に陽に蒙りたる同志者の侮辱に至りては殆ど一々擧げて算ふべからず、然れ共諸君、是れ吾人の豫期したる所に非ずや、其の最近吾人の實驗せる不法なる選擧蹂躙の如きは、是れ毫も吾人の屈辱に非ずして、日本の政府と、之を看過せる日本國民との屈辱なり、去れば吾人は何をか怒り又た何をか怨みん、吾人の心事は吾人能く之を知る、吾人は一に只だ所信を大呼して驀進せば足る、看よ機運は怒濤の如く動きつゝあり、遲疑して後るゝと勿れ、

△社會主義は競爭の進化を信ず

△競爭は最初主として體力的なりき、故にゴリアテ、アガメンノンの如き巨人出でたりき

△競爭は次に主として武力的となれり、乃ちアレキサンドル、ハンニバル、シーザー、ナポレオン等あり

△競爭は又次に產業的となれり、ロスチャイルド、ワンデルビルドの如き、財界の英雄此に於てか出でたり

△社會主義は此競爭を更に進化せしめて智力的と爲さんと欲するものなり

●我が行く道は前に在り

某商店の賣場にて　一讀者

我が行く道は前にあり
荒れ田に土を反すべく
枯れ木に斧を揮ふべく
種を播くべく植ゆるべく
芽を吹かすべく肥すべく

我が行く道は前にあり
劔の山も歩むべく
炎の海も潜るべく
暗を追ふべく破るべく
光り待つべく迎ふべく

我が行く道は前にあり
貧富の國を逃るべく
自由の國に走るべく
鎖切るべく棄つるべく
手を握るべく振ふべく

我が行く道は前にあり
野に樂園を現すべく
地に天國を築くべく
主義叫ぶべく傳ふべく
身を捧ぐべく進むべく

我が行く道は前にあり
朝には倶に稼ぐべく
夕には倶に遊ぶべく
國開くべく助くべく
人愛すべく睦むべく

●社會黨選擧運動日誌（續）

▲十二日　夜京橋區因幡町市川亭に候補者木下尚江君政見發表演説會を開く、例の如く僅かに開會を報すると同時に解散せらる

▲十三日　夜兩國回向院前武藏屋に演説會を開くべき筈なりしが、急に會場を斷られたる爲め開會するを得ざりき、是れ固より警察の干涉の結果也△此日同志十數名、市內各區に印刷物數萬枚を配布せり、其印刷物の表面には木下君の宣言書あり、裏面には木下君に對する吾黨同志の推薦狀あり、警察は之を見て大いに狼狽し、我同志の跡をつけて、或は拘引し、或は强迫し、種々の手段を以て印刷物を奪ひ去らんことを勉めたり、然れども吾同志は最早おめ〳〵と其手を喰ふ者にあらず、或者は巧みに巡査の目を遁け、或者は敏捷にも巡査の眼前を走り過ぎ、殆んど遺憾なく配布の目的を遂し得たり

▲十四日　夜下谷二長町足立屋に演説會を開く、例の如く開會を報すると同時に解散せらる、聽衆悖激昂す、解散後、會場前の往來に出でたる聽衆と會場の二階に殘れる吾同志と、上下相呼應して『社會黨萬歲』を叫びたるは頗る愉快なりき△此日又多數の印刷物を市內に配布せり

▲十五日　夜神田青年會館に於て最後の大演説會を開かんと欲し、大いに其準備を整へたるに、青年會館は突如として會場の使用を斷り來れり、其理由とする所は、選擧運動の爲めには此會場を貸すを得ずと云ふに在り、吾人は今深く其理由に就て追究せざるべし、兎にかく吾人は急の斷りに遭うて大いに閉口し、他の會場を求めたれども時既に晩くして借るを得ず、さりとて其儘にては來會者に對し相濟まざる次第なれば、同志十數名、午後より降りいでたる雨の中に、青年會館の門前に於て一々來會者に其旨を告げ、殊に木下君は其滿腔の不平を抑へ、靜かに來會諸氏に謝意を表して、六時より八時までの二時間を濡れながら立盡したり、其間にも神田署の警部巡査十數個は吾人の間に立交りて、事ありげに警戒し居たりき、されど吾人の間には固より何事もなく、只、松本何某と稱する警視廳の犬が、同志らしき顏をして來りたるに依り、「彼奴は犬なり、探偵なり、スパイなり」と嘲罵する者あり、續いて「彼奴をナグルべし、ブツべし」と嚇かしたる者ありしが、彼奴がそれに恐れてスゴ〳〵と闇の間に逃げ去りたるを見て皆々打笑いたる後、『社會黨萬歲』を絶叫して引揚げたり、是れ今回の選擧に對する吾黨運動の大尾也

▲十六日　投票の當日也、我主義の爲に投票する者、果して能く幾人ぞ、吾人は既に運動を終れり、只樂しんで開票の報を待つのみ△午後來狀あり、曰く、『小生は今回の選擧に關して林、江間、關派より勸誘を受けたり、木下派より勸誘を受けたることなし。小生三氏に對して毫も恩怨なきのみならず、三氏を見たることだになし、然れども林、江間、關氏の中に投票するを快しとせざりしに依り、木下氏に投票せり。小生は社會主義の純然たる同意者にはあらず、又木下氏の平素の意見に全然同意する者にもあらず、されど小生は三氏中にては木下氏が衆議院議員たるに適するの人物たるを信じたればなり、今日の政黨の横暴なるを惡む者なればなり。思ふに木下氏の得票數は極めて少かるべし、されど木下氏に於ても、同氏推薦者に於ても、今回の得票の多寡を成敗の度外に置き、次回の總選擧までに地盤を固めらるゝやう勉められたし。謹んで一書を呈す、敬具。木下尚江君推薦者御中、小石川一平民』吾人豈に感激せざるを得んや。

THE CHOKUGEN.
SOLE ORGAN OF JAPANESE SOCIALISTS.
Issued every Sunday.
Communications addressed to the Heiminsha, Tokyo.
Vol. II. Tokyo, May 21th, 1905. No 17.

THE RESULT OF THE ELECTION.

The bi election was performed on the 16th as already reported. Our socialist votes given to Comrade Kinoshita, the candidate, were only thirty two. But these thirty two votes are very precious. We even imagine that they are, like the stars in the clear sky, sparkling and glittering most brightly in the sky of Japan, and the comrades of all the world are looking at them from far and near with great hope and joy, and most sympathetically clapping their hands.

The government dissolved our meeting of every evening from the 7th to the 15th. So Comrade Kinoshita could not deliver his eloquent speech even one time during the whole week of our movement. His declaration printed in a leaflet was also prohibited from the distribution among the electors. The policemen were always on the heels of our comrades engaged in the movement, confiscating the leaflets and even arresting some of our comrades.

But in spite of these persecutions the government could not prevent in any way those thirty two votes from being given to Comrade Kinoshita.

We think, at any rate, this was a great success under the present conditions in this country.

THE GOVERNMENTAL MONOPOLY.

The tobacco monopoly was adopted last year by the Japanese government. The salt monopoly bill was also passed in the last session of the Diet. Now the sugar monopoly bill is said to be also proposed in the Diet of this winter. And all the profits got from these monopolies are going away to the military expenses as the smoke or bubbles.

So in this manner state capitalism is rather worse than the individual capitalism.

IMPERIAL SOCIAL POLICY.

The Imperial Household has promised to make a yearly present of one thousand yen for ten years to a charity institution for orphans, and made a present of one thousand yen to a similar institution for ex-convicts. It has also made a present of ten thousand yen to the so-called tent work of the Association for the Japanese Young Men's Christian Association in the battlefield.

These acts of the Imperial Household are said to be the first step of the social policy, according to the explanation of the official paper. We can say nothing about this because the matters referring to the Imperial Household are all regarded here to be extremely sacred.

直言は日本社會主義の中央機關紙也!!!

（平民社電話　本局三二六二番）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日本之新聞

○社會黨の樹立

（東京市補缺選擧の結果）

東京市の補缺選擧は去十六日を以て擧行せられたり、林氏は勝ちて江間氏は負けたり、然れども二氏の勝負は吾人の問ふ所に非ず、吾人は只吾黨の候補者木下尙江氏が神聖なる投票三十二個を得たることを記せば足る、而して市内各區に於ける其分布を見るに左の如し

神田	一	麴町	一
日本橋	九	芝	一
京橋	九	麻布	二
淺草	一	下谷	一
本郷	一	赤坂	一
牛込	一	小石川	一
四谷	一	本所	一
深川	一	合計	三十二

政友會と云ひ、進步黨と云ふ、吾人より見れば同じく是れ紳士閥の政黨也、彼等の間に於ける甲乙二派の如き也、其一起一仆は平民の利害と何の相關する所あることに非ず、只注目すべきは彼等諸派と社會黨との勢力の消長のみ、社會黨の勢力未だ甚だ微なりと雖も、社會黨の目的は實に紳士閥諸派全體と戰ふに在らざる可らず、社會黨の意氣抱負は實に此大目的の遂行に在らざる可らず、政府は無法にも形式上に於て社會黨の存在を禁止せり、然れども憲法治下の選擧に於て、社會主義の候補者が兎も角も數十個の投票を得たるは、是れ豈に嚴然たる社會黨の樹立に非ずや、法律上の形式は如何にもあれ、是れ既に動かす可らざる政界の事實に非ずや、木下氏は單に一個の政治家として獨り自ら選擧場裡に立ちたるに非ず、彼れは日本社會主義の同志に推薦せられ、明白に其社會主義政見を發表して立ちたる也、而して彼れは兇暴なる政府の干涉と過酷なる制限選擧法との下に於て、猶ほ且つ三十二個の投票を得たる也、是れ世に儼然たる社會黨の樹立に非ずや、社會黨は今日以後、常に進んで政界の實際運動に着手し、悉く彼の紳士閥諸派を敵とし、普通選擧の大武器を以て彼等に肉迫し、他年一日、最後の決戰に於て大勝利の獲得を期すべき也

○露骨なる選擧干涉

吾黨の選擧運動を開始するや、政府は其の平生の迫害の手を延ばし、更に一層の兇暴を極めたり、吾黨の運動は固より公明正大にして、只宣言と文章とあるのみ、乃ち吾黨は一方に木下氏の宣言を印刷して之を配布し、一方には連夜市内諸處に演說會を開きたり、然るに警察は極力其宣言書の配布を妨害し、悉く其演說會を解散せり、其亡狀の委曲は載せて別項「選擧運動日記」に在り、是れ實に露骨なる選擧干涉に非ずや、一個の政治家あり、一國の人民に推されて候補者となり、同志諸黨と共に選擧運動を試む、是れ法治下に於ける極めて明白なる合法的行爲なり、江間氏も是れ也、林氏も是れなり、彼の繁苛なる選擧取締規則の一條一項と雖も之を禁止妨害することは能はず、而も政府は木下氏の運動に限り、此の合法的行爲に對して彼の如き干涉を敢てせり、之を無法と云はずして將た何とか云はんや、然れども茲に治安警察法なるものあり、彼等をして自由に此の無法を敢てせしむ、故に治安警察法の存在する限りは、政府は其の欲するが儘に、憲法を蹂躙し、法律を無視し、如何なる兇暴と雖も爲し能はざるの事なし、民權の爲に起れりと稱する諸政黨が、政府をして斯くの如き法律を作らしめ、而も恬然として恥づる事を知らざるは、眞に驚くに堪へたるものあり、又世の政治家、新聞記者の徒が、眼前に此の露骨なる選擧干涉の事實を見ながら、一言半句の攻擊の聲をも發し得ざるは、氣の毒にも亦哀れなる次第と謂ふべし

○社會主義と伊藤博文氏

「中外商業」の傳ふる所に依れば、伊藤博文氏は去月三井集會所の晚餐會に於て、一杯機嫌の醉氣焰を吐きたるが、中に我が社會主義に關し左の如き一節もありきとなん

△今の當局者は社會主義を壓服し、盡く其討論を禁止し居れり、是は過てり、社會主義の唱道何の不可かあらん、之を一派として唱へしむるも亦可ならずや、と、論じ來りて辯鋒當るべからず

社會民主黨の禁止が、彼の伊藤總理大臣の下に行はれたりしを思へば、何だか當になつた話にはあらねど、兎にかく物の分つた樣な顔をせんと欲せるには、是非とも斯く云はざるを得ざる譯なるを察すべし、山縣系の一派よりは聊か文明的なりと自信する者には、眞逆今日の如き馬鹿々々しき鎭壓策は爲されざるべし

○門司同盟罷工の落着

門司の石炭仲仕七千餘名は（前號にも報じたる如く）賃銀値上の要求を爲して聽かれざりしが爲め去十三日より同盟罷工を爲し、それが爲め港内の大汽船二十餘隻は石炭を積込むを得ずして空しく碇泊し、一時人心恟々を起せしが、翌十四日に至り石炭商人は遂に降伏し、賃銀一割の値上を爲して纔かに落着を告ぐるを得たり、吾人は門司勞働者の意氣を愛して其成功を祝せざるを得ず

○勞働者の運命

△去廿日深川區東大工町に六十二三歲の人足體の男行倒れ居たり、取調ぶるに據れば八神田區平永町の細民物部岩間三平の妻お藤（五十）と云ふ者にて、子を抱へ、良人出征中の留守を預かり居たるが、去十六日餓に臨死せり△四谷愛住町金田茂兵衛の妻は七つと五つとの二子を遺れ、良人は出征中を過しかれ、家主に追立てられて往來を彷徨ひ居り、去十六日やうやく養育院に送られたり△兵營より投げ出されたる谷元新左衞門は妻子と共に溺水に身を投げたり△去月鐵砲洲に若き女の死體一つ浮び上りたるが、その同社の工女若水阿由（十八）と云ふ者なりき△麻布區の工女木露はなといふは、去月同工場を逃れ出でたるも、警察より同工場に歸れと勸められたるに對し、若しあそこに歸さるる位ならばイツソ死ぬるが增しなりとて泣き狂ひ、流石に巡査も持て餘したりとぞ

●社會主義大演說會

明廿一日午後七時より、神田青年會館に於て開會、辯士及び演題左の如し

△日本文明の基本　木下尙江
△凡人主義　堺利彦
△天才主義　石川三四郎
△價値論　山田金一郎
△現今の勞働は神聖なるや　山口義三

●秘密探偵嫌疑者處分

（加納豊氏、吾黨の運動より退隊す）

▲「同志中に犬あり！」とは、近來何處よりともなく吾黨中に傳はれる言葉なりき。而も其犬の果して誰なるか、一人なるか、二人なるか、三人なるかは、何人も之を知るを得ざりき。

▲然るに頃日同志の一人加納豊氏は頗る奇異なる消息を漏し來れり。曰く『予は芝警察の刑事に誘はれて屢々某牛肉店に飲食したり、或晩同店に於て同署の警部高橋某と邂逅し、終に相携へて品川遊廓島崎樓に遊びたり、其後警察は予を買收せんと欲するもの〻如し、予は其の釣らるゝ眞似して却つて彼等を釣らんと欲したり、彼の高橋警部は予を芝署に招き、終に明かに秘密探偵の任に當らんことを予に求めたり、然れども予は良心の許さゞるに依り斷然之を拒絶したり』と。

▲何人も知らざるべき此事實を、加納氏自ら語り出でたるは、加納氏が眞に却つて敵を釣らんと欲したるの心事を證するに足ると爲す、然らば此事實に依りて加納氏の嫌疑を受くべき道理なきに似たり。而も嫌疑は此事實を中心として加納氏の上に集中せり

▲事こゝに至りては、最早默過すべきに非ず。乃ち去十六日の夜、同志十數名平民社に會して此事を議せり。木下尙江氏座長席に着き、先づ加納氏をして高橋警部との關係を辯明せしむ。加納氏は其の質樸なる風采と、其の深沈なる態度とを以て同志に對し、何の恥づる所もなく、いと詳細に、牛肉店、島崎樓、芝警察、及び高橋警部の住宅に於ける會合の次第を物語れり。

▲加納氏の辯明終るや、鋭き質問の矢は諸方より起り來れり。曰く「足下はユニテリアンの信者として遊廓に入るを恥とせざるや」曰く「芝署が足下に着眼したるは、足下が先づ買收せらるべき態度を示したるが爲にあらずや」曰く「足下は吾黨の爲に、其平生に反して遊廓に踏入るまでの苦肉の策を用ゐながら、何故芝署に於ける會合の時、喜んで買收に應じて更に深く彼等を釣らざりしや」曰く「足下は足下の親友と稱する會長某氏が警視廳の御用通信を爲せるの事實を知れるや」曰く「足下が嘗て横須賀の演說會に赴きし時、先づ某々の演題を問ひて之を手帳に書きとめたるは何故ぞ」曰く「足下が島崎樓にて買ひたる娼妓の名は如何」曰く「是は如何」。

▲加納氏は是等の質問に對し、些の憤怒の氣なく、些の羞恥の態なく、落ちつき拂つて懇懃に應答せり、然れども總ての應答は、能く十分に同志の疑ひを解くに足らず、殊にかく加納氏は、高橋警部に對して斷然之を拒絶したりと稱しながら、猶ほ其後に於て數回高橋氏の住宅を訪問したるの事實を知り得たり。而も加納氏は之を辯じて曰く、是れ他の同志中に買收せられたる者あるを探らんが爲なりと。而して又、其被買收者は（高橋警部の語る所に依りて）我同志中に二名あり、其一名は齋藤、岡、松崎、石川の四氏の中に在るを思へりと。

▲質問詰責は更に起れり。曰く『高橋警部が足下に對し（買收を拒絶したる足下に對し）、他の被買收者の事の如き重大の秘密を語るとは、何人も信じ難き所に非ずや』曰く『然るに足下が強いて高橋警部の言を信じて他の同志を疑ひたるは、事餘りて輕卒に非ずや』

▲加納氏の之に對する答辯は甚だ要領を得ず、只高橋警部の言を信じたりと云ふに在りき。又此の四人の容疑者中、松崎氏は此席に在らず、石川氏は何の辯解をも爲さず、齋藤氏は起つて『只諸君の判斷に一任するのみ』と挨拶せしが、岡氏は勃然として怒り、其長大の身軀を以て加納氏の前に進み、『予にして若し眞に嫌疑を受けば、彼の風聞なる二氏に對しても、予は直ちに割腹して死すべき也』と、面色を變じて加納氏を詰れり。

▲是に於て質問と辯明とは終り、座長は次の如き處分案を提出せり。曰く『要するに、加納氏今回の事は、我同志として少くとも輕卒の行爲たるを免れず、若し加納氏の平生を知らざる裁判官をして之を斷ぜしめば、正に有罪の判決を下すべき證據十分なりと謂はざる可らず、故に吾人は我主義の信用の爲め、及び我黨の運動の爲め、遺憾ながらも加納氏が暫く我黨の運動より退隊せんことを要求せんと欲す、諸君の意見如何』

▲衆皆之に贊す。座長乃ち同志の決議として此旨を加納氏に告ぐ。加納氏唯々として之を諾す。[illegible]の如し。

▲斯くの如くして秘密探偵嫌疑者處分は終れり。而して加納豊氏は今後平民社に出入せず、吾黨の集會に出席せず、吾黨の同志と交際せざる事となれり。

吾黨の選擧人に謝す

吾黨の候補者木下尙江氏に投票したる東京市民三十二氏に對し、吾人は茲に謹んで滿腔の謝意を表す

諸君の投票三十二個は、晴れたる夜の星の如く、燦然として日本國の中天に輝けり、國中の同志は其新光に照されて更に精銳の氣を養ふべく、全世界の同志は遙かの果より之を望んで拍手喝采するや必せり

諸君の投票僅々三十二個なりと云ふこと勿れ、諸君が有する一票も決して只の一票に非ず、制限選擧の下に於ける諸君の一票は實に貴重なり、諸君は實に此一票を以て日本平民の幾百幾千を代表したるもの也

諸君願はくば次の總選擧に於て、諸君の其一票をして更に大いなる光明を放たしめよ

日本社會主義同志

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

世界之新聞

○失業者の示威運動

▲トラファルガルの示威運動　英國の失業者は今尚は各地に於て示威運動を續け居れり、昨年の末、並に本年の初に同志ジャック、キリアム及びサルモン諸氏の指導に依れる活動は、失業者を奮起せしむべく非常なる効を奏せしが（其の運動の状況は第十號に記載せり）彼等は猶は其運動を停止せず、四月初旬の月曜日にもトラファルガル十字街頭に一大示威運動は開かれぬ、而して此の運動は、其實状の最も眞面目なることを政府に示したり、而も當日といふに雨は朝の八時より降り初めて、終日引きも切らず降り續けたりと云ふ

△エムバンクメントより來れる一隊の如きは一時其の運動は不能なる可しと思ひし程なるが、突然、エドモントンの失業者の『ステップニー、プラッス隊』は殆んど三千人を以て勇ましく組織せられ、既に二千の群衆が集合せる十字街へと押し行けり

△思ふに此の示威運動は、會し來れる大群衆をして好天氣の下に參列せる如き快感を懷かしめしならん彼等の演說並びに感激は明かに之を表はしたれば也

一の決議案はウキル、ソルン氏に依りて發議せられ、サルモン、アービング、マーサー、ワット、ストーク、ジョーンス諸氏の雄辯なる賛成演説を以て之れに次げり、決議案に曰く

合致勞働者の本集會は、失業者問題が最大重要事件の一なることを認むるに依り、議會開會に際して皇帝が演說中になせる約束に從ひ、失業問題に關する議案を議會に提出することを政府に要求す

若し此問題にして秋期に至る前に、國家樞府に於て處理する所とならずんば、多くの地方行政廳は再び敵對し能はざる危險の地位に陷ゐるべきを以て、吾人は此の事實に對して豫め天下公衆の注意を促す

而して又た、總理大臣並びに其の同僚にして、彼の聖坐よりの演說に於て提出せられし詳細なる約束を顧ぼ不問に附せんか、彼等は宜しく嚴重なる責任を甘受すべき也

降雨を冒して此の太運動を試む、彼等の眞面目なる思ふ可き也

▲サウス、ウエスト、ハムに於ける示威運動　同じく四月初めの火曜日の夜、サウス、ウエスト、ハムの公會堂は、イサベラ、フォード孃及びケア、ハーデー氏の失業者問題の演說を聞かんとする會衆を以て充溢せり、フォード孃は婦人の立地より失業問題を論じ、ケア、ハーデー氏は主に饑ゑたる兒童の問題を提へて演説したる由、又た社會主義日曜學校員一同は列席し、ウオルター、スコット氏の指導の下に、演壇の周圍に於て、『インターナショナル』『イングランド、アライズ』等の歌を非常なる美音を以て唱歌せり

▲獨立勞働黨ヨーク支部の宣言　其の宣言は、彼の慈善事業其の他の私立團體に依て此の問題を軟化せんとするを攻撃せるもの也、若し是等姑息なる事業は却て此の問題を危殆に陷ゐるゝものと爲したれば也、玆に其の宣言を掲ぐるは甚だ煩はしければ略す

○露國革命の餘焰

露國革命の火は未だ其の餘焰を止めず

△露國内部の騷擾は再び各地方に於て勃發せり、近來政治上の目的を有せる殺人幷に其企圖頻繁にして軍隊と人民との衝突少なからず、其結果常に幾多の死傷者を出せり、而して政府は毎に近衞兵及びコサック兵を以て右騷擾鎭壓に從事せしむるが如く、此等の軍隊は奔命に疲れつゝあり、新の如く形勢不穩の狀あるに依りメリトポイ、ウイルナ、グロード及びスモルゴニに於ては戒嚴令宣告せられたり

△露國職工の決議　ウオルフ通信社の報ずる所に依れば、レヴエル附近に於て一千名の職工集會を催しが、會議の結果、五月祭日を期して三日間同盟罷工を行ふこと、及製造業者に對し再び要求を提出し二十四時間内に其要求を容れざるに於ては工場に放火すべきことを議決せり（外務省着電）

△波蘭騷亂涸變　ワルソウにて波蘭人の愛國的示威運動は一昨日哥薩克兵の爲に潰亂せしめられ其の死人は一昨夜秘かに葬られたり、其數知る可らず一昨日ロズに於て又もや烈しき暴動蜂起し、軍隊は發砲し群衆を死傷せしめたり

又た總同盟罷工を起せるグロドノにても騷動起れりと報ぜらる（十五日發電）

△五月祭（十五日）の騷擾　ワシリオストロフ及シユリユースセルブルグ方面に於て小騷擾あり、又聖彼得堡にて午後より夜にかけて、官吏は祭日の遊客に對し解散を命じ居たるに、群集の嘲罵を蒙りたる上、人造湖水の中に追ひ立てられ、此處にて膝を沒せる水中に立てりしを、又もや群集の爲め短銃にて威嚇せられしが、兎角する中コサック兵の來援に接し一同解散せり

△露都に於ては示威運動一昨日を以て再び始まり、數千人の職工は叛逆的叫聲を放ちつゝ市中を練行きたるが、コサック兵のために追ひ散らされたり、歐露東方の地方ウバ並に高加索地方なるイカテリノに於ては、五月祭の騷擾頗る紛紜し、是亦コサック兵に追散らさる（十七日發）

△農民の暴動　露國ニデニノブゴロツトのセルカツチ地方に於る農民は暴動を起し數ケ所に放火せり

△莫斯科の地方議會代表者の會議は閉會せり、同議會にて普通選擧並に獨立機關として上下兩院を創設することを協贊せり（昨紙其筋着電參看）

此の如き激烈なる運動の間にも彼等は決して其の理想を表示することを怠らず、と、革命を以て單に破壞事業とする勿れ彼等は最も進歩せる理想の上に建設を試みんとする者に非ずや、而して露國政府も最早專制的鎭壓の効なきを思ひてや

△露國内務大臣は二院より成る議會を組織する爲め制度に變更を加ふべき一方案を起草せり、即ち下院は民選代議士五百五十名より成るものとし、現存帝國會議を以て直に上院を組織せんとするにあり（ロイテル電報）

と云ふ、吾人は速かに改革の實行せられんことを期待すると同時に、其の改革が完全なる民主主義の實現たらんことを切望するもの也

○婦人解放案

英國に於ける婦人解放の問題は、今や總選擧前の事とて、其の實行運動甚だ盛んなるが、殊に最近に至り、此解放案を商議すべく多の會合が諸方に開るゝを見る、蓋し目下開會中の議會に對する示威運動を意味するならんか

△マンチエスターにある博物館及び大學寮等に於ては、四月初旬、婦人會は會衆の大多數を以て其法案に贊成する決議を爲せり、討論はイサベラ、フヲレツト孃に依て開かれ、孃は其解放案の爲に辯じたりしが、パイルス氏は之に反對せり

△トインビー會は土曜日に於て其特別會を開き、アルダーソン氏の反對演說、テレサ、ビリントン孃の贊成演說の後、同法案は同前の勝利を得たり

△其他、アシュトン、アンダーライン商業會議所に於ては火曜日に、リバープール郵便電信局員會議は月曜日に、何れも討議を經て贊成に決し、遂に一つの決議案は數多なる投票を以て成立し、而して一の請願は衆議院に提出せられたり

流石は英國婦人なり、其運動如何にも正正堂々たるものあり

○ケア、ハーデー氏の注意と質問

ケア、ハーデー氏は教育局書記官に對し、學務委員會の報告に就きて注意を促したり其報告によれば、毎日公立學校に出席する兒童中、四千四十七人は皆な食糧に欠乏せる者にして、其中三千三百七十一人は兩親に棄てられたる者なり、さればケア、ハーデー氏は之に就き質問して曰く文部省は此問題に對して如何なる處置を採るべく提議せしやと、蓋し彼は文部省の餘りに緩慢なるを憤れるなり、ア、世の文明愈々進み、社會の富益々加はり、而て人類の慘狀を極むる斯の如く甚し、何の文明ぞや、何の富ぞや、今は此等のもの皆な惡魔の爪牙となれり

○波蘭の愛國者

露領波蘭今日の反抗運動は、全然社會民主黨及革命社會黨の運動にて、所謂愛國者は毫も之に與らざる也、全國平民が獨りザールに反抗するのみならず、紳士閥にも反抗するものあるを知りたり、全國の國粹保存黨と民主黨とは、卑屈にも露國官僚政治の奴となりて、今や全く傳來の愛國的傳說を忘れ、露國皇室に對するあらゆる憎惡敵愾心をも忘れ去らんとすと、知らずや平民諸君、何處も同じ紳士閥の愛國心は斯の如きものなるを

○支那の勞働組合

支那の勞働者は其資本家と同じく勞働組合を有し、勞働者と資本家との間に、給料、勞働時間等に關して紛議を生ずる時は、此兩組合の合議に依りて裁決するの習慣にて、若し兩者の意見一致せざる時は、資本家は毎に其工場を閉鎖して勞働者を苦しめ、之に依りて勞働者を屈せんとするも十中の九は勞働者の勝利に歸すと、團結は勢力也先進國を以て居る我國の勞働者は團結せざるべからず、諸君が未開國を以て目する支那の勞働者は既に之を爲るに非ずや

○社會主義者巴里市會議長に當選す

佛國の社會主義者博士ポール、ブロンス氏は今回巴里市會議長に選擧せられしが、衞生學者たる氏は市政に深き注意を拂ひ、卅年來社會主義の爲め盡力し居りと

○軍備費國家を倒す

ノルウエー及びスウエーデンの兩國は、北方露國の侵掠を防ぐべき大軍を支持せんが爲め、酷重なる租稅を徵し、而して遂に自ら其重稅に壓潰されんとしつゝあり、アゝ此機に乘ずる露國人の陰謀は毎年の如く發見す、此等の國も亦たフインランドの覆轍を履むものなる歟

●味噌汁を以て汝等の面を洗來れ

（傳道行商に對する干涉）

政府の恐社會主義病は甲信傳道行商隊の事業に大妨害を加へ、檄の配附を禁じ、傳道隊を拘禁し、演說會に中止解散を命ずる等、有らゆる大暴虐を極めつゝあり而して東北傳道行商に向ひたる余も亦實に其御多分に洩れざりし也。

余の千葉縣を經て茨城縣に入るや、警察は常に余に附するに三名若くは四名の部長及び巡査を以てし、余が各戸を訪問して行商するや、また倶に入り來りて監視しつゝあり、而して若し若干の書籍を購求する者ありたりとせむか、巡査は嚴重に其の氏名を筆記し行く也警察は惡い者を捉へる處と耳信じつゝある世人の、余を怖れ憚かり、拒絕し、留守を使ふ、又實に故あるなり、然も、此くの如きは尚可なり、余は實に左の如き暴虐の例證を有す！茨城縣柴崎の曾つて平民新聞の讀者たりし某氏に對しては、江戸崎警察署より、余が訪問するも面會し若くは書籍を購讀すべからずと强迫せりと、又水戸市の同志の許へは、警察より左の如き御達しありたり『過日平民社より荒畑なる者が來訪せむも、彼れは金錢の强請に來れる者なれば面會する勿れ、彼れは露探なり』と、噫惡笑せよ、「國賊」てふ流行の惡語を放つに非ざれば、大政府と雖も敢て社會黨の一小僧たる余に對して抗す能はざるに非ずや、また余が水戸市中に行商を試むるや、警官は余が訪問する家々の主人を傍に呼びて之に耳語するなり、而して主人は直ちに余に向て拒絕するなり、此くの如き干涉に對し、余いかでか默視するを得む、乃ち此れを巡査に詰れば曰く『上官の命令也』と、而て更に之を署長に詰れば曰く『政府の命令也』と、呼々政府の命令！內務大臣の命令！先きに書類の出版を許可したる內務大臣は今や書類の販賣を妨害せむとする者也更に檄を配付すべからずとの命令に對し、余が極力反對を試むるや、水戸警察署長は曰く『ソンナ理屈を云ふて居ては拘留に處せられたいのか』と、知るべし、彼等の前には理屈なき也、正義なき也、人權なき也、唯だ亂暴極まる壓制ある耳、『拘留に處せられたいのか』呼々此一語、實に能く吾人を迫害し壓制する現政府の意志を明白に而して單簡に表示せるものに非ずや。呼々怯懦なる警察よ、愚鈍なる政府よ、愚なる汝等が陋劣陰險なる手段を以てして吾儕の大運動に一寸の阻害を與へ得べしと信ずる事や。須らく先づ味噌汁を以て汝等の面を洗ひ來れ!!!　（荒犬王）

●編輯雜事

▲編輯に對する注文　△通俗的理屈、例せば平民新聞第五十九號『銀行の巡査』、同六十三號『新浮世風呂』の如きものを毎號載せて貰ひたい△自然及び勞働な歌へる詩歌を望む（以上鮮名氏）△主義に關する演說、譚話の大要を成るべく多く揭ぐる事△簡單なる主義の釋文を揭ぐる事△經典となるものを成るべく多く揭ぐる事（以上正美氏）

▲『一小學敎員』より寄せられたるお伽話『お目出度き白』は、チヨツト面白く讀みましたが、少々危險の恐あるに依り、暫く預つて置きます

▲『三ちやん生』の『木兎と鶏』、『せい』氏の『社會主義講話』いづれも結構ですが、今一いきと云ふ樣な氣持もします、猶再讀しませう、介山氏の『親』は次號あたりに載せる積りです

▲本號に載せた唱歌『我が行く道は』ホラ〳〵と能く出來て居ると思ひます、殊に歌ふに適して居ると思ひます、誰か是に譜をつけて下さる人はありますまいか

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

クリスチアン活動の新方面

（本郷教會に於ける青年會の講演）

石川旭山

（一）自由の歴史

予嘗て泰西歴史を讀み、十六世紀より十九世紀に至る所謂近世史を閲するに及び、其三百年間の歴史を支配せる理想が一つに『自由の發展』に歸するを見たり然り、近世の歴史は實に自由の歴史なり曰く宗教上の自由、曰く學問上の自由、曰く政治上の自由、歴史の眼目は常に自由の發展に非ざる無かりき

抑も此の近世史、此の自由史は、如何にして其曙光を放ち、何人に依て指導せられしや、吾人は之を世の歴史家の言に聞かん、歴史家は曰く、近世史の起源は古學の復興にあり、而して古學の復興は之をクリスチアン●チアーチの功勞に歸せざる可らずと、然り、吾人も亦た之を信ず、夫の近世の革命が其の嚆矢を『宗教の自由』に放ちたるは、蓋し當然の事なりと云ふ可し、ルーテルや、ツヰングリーや、近世自由史の先驅者指導者として最も卓出せる偉人と言ふ可し

近世自由の革命は宗教に始まり、政治に終れり、即ち宗教上の自由に始まり政治上に及びし也、見よ、歐米の人民、封建時代の政治の專制を破らんとして革命を企圖せる時、彼等の依頼する理想は何なりしや、曰く自由平等博愛是なり、曰く代議政治是なり、然り、自由平等博愛、是れ基督教の道徳と古代の羅馬法とに、融和結合して近世政治の理想となれる也、基督教の効も亦た大ならずや

（二）第二の封建制度

然るに斯の如くにして建立せられし立憲代議政治は、今や却て當初の教訓たりし自由平等博愛の理想を埋沒するに至れり、蓋し第二の封建制度を生ぜしが故ならずんば非ず、抑も第二の封建制度とは何ぞや、曰く、所謂産業的封建制度是なり、資本家制度是なり、吾人は茲に改めて資本家制度の弊を序するの却て讀者を煩はすを知る、されば一言、唯だ其結果に就て述べん

△第一、社會の富は益々少數資本家の掌中に集注する也、第二、今や庶民政治に參與するを得るの權利ありしを以て、彼等は其財力に依て更に政治の權力を掌握する也、政府と資本との結合は、遂に資本家をして絶對萬能の力を以て萬民の上に臨ましむるに至れる也、是れ之を第二の封建制度と稱すべし

△[illegible]恐るべき結果に生ぜり、道德の敗頽是なり、見よ、今日の工場に於ける雇主と雇人との關係は、又た昔日の如き親愛の情あるを見ず、雇主雇人の間、法律的關係こそあれ、[illegible]道德的の觀念を留めざるなり[illegible]の人、今日の資本家は安[illegible]、而して[illegible]ある慘憺の狀なり

人は皆な神の子にして兄弟にして平等なりとの基督の教訓ありてより、實に一千九百年の經驗を積來れる今日に於て、諸君の眼前には此る慘狀の開展せらるゝあり、而も諸君は猶ほ傍觀り晏如たるを得るや

（三）活動の新方面

然らば之を如何にすべきや、第一の封建制度を打破せるのクリスチアンは如何にして第二の封建制度を撲滅せんとするや、是れ實に諸君の活動を迎へんとして新たに開展せられたる部面なり、然り、諸君今後の活動は、世界の人類をして此の悲慘の狀態より脫出して、共同生活の樂境に進入せしむるに在らざる可らず、而して此の目的を達する、如何の方法を採る可きや、所謂慈善事業か、否、所謂改良主義か、否、吾人をして之を簡單に斷ぜしめよ、慈善事業は姑息なり、改良主義は苟且なり、刀を社會の骨髓に入れて其病根を絶たんとする、蓋し社會主義に來るの外、又た他に其の途あらざる也

世に社會主義を反駁する者あり、或は曰く、是れ單に物質主義なればなり、或は曰く、是れ非國家主義なればなり、又た或は曰く、是れ却て個人の自由を束縛すればなり

△物質主義なりとの評や、中らざるに非ず、されど人は性に[illegible]、若し人の[illegible]獸性に訴へ[illegible]、吾人に[illegible]、社會主義は即ち人の待遇を改革せんとする也

△社會主義は非國家主義なりや、若し非國家的の主義が不可なりとせば、寧ろ其不可なるは今日の資本家制度に非ずや、蓋し今日の産業は國家てふ門戸を打破して世界的に膨張せずして、而して國家に國家本來の目的の爲に活動するに至り、此の非國家的資本家の私益の爲に活動する社會主義が、國家本來の目的に反する所なり、又た既に世界的に膨張せる組織を打破せんとする社會主義が、世界的運動を敢てするは、何の不可かあらんや、若し夫れ世界の人類が相携へて共同生活に入らんとに於ては、[illegible]理想せる所、獨り社會主義のみの說く所に非ざる也

△社會主義は個人の自由を束縛するに非ず、寧ろ今日の經濟組織の如く、人の自由を束縛するに非ず、[illegible]個人の才能を自由に發展せしめんとするは即ち社會主義の本旨に非ずや

社會主義は實に斯くの如きもの也、近世史に於ける自由の指導者たる基督教の諸君、何ぞ蹶然として此の社會救濟の運動に投ぜざる

（四）クリスチアンの安心

近時頻りに聞く、青年に煩悶多しと、夫れ煩悶あるは其の無きに勝る、若し煩悶は安心に入るの階梯なれば也、然るに宗教愈々盛んにして煩悶益々多きは何ぞや、思ふに煩悶は教訓を『開く』に依て生ずるもの多し、宗教の勃興するに從ひ煩悶の叫び高き所以也、然らば吾人は如何に此の煩悶の苦痛を排除して安心の天國に入る可きや、耶蘇の福音に曰く『我を召んで主よ主よと曰ふもの盡く天國に入るに非ず、唯だ天に在す父の旨に遵ふものゝみ天國に入る』と、此に於て吾人は思ふ、煩悶は教訓を『開く』に依て生じ、『行ふ』に依て去ると、即ち萬人平等に神の子たるの實を現世に來らせんとに力を盡すは、吾人が安心を得るの唯一の徑路也

且つ夫れ諸君は常に海老名先生の熱烈の說教を聞き、而して又た眼前に夫の悲境に沈淪する多くの同胞を見るの時諸君は獨り退いて晏如たるを得るや、今の世に於て獨り自ら煩悶に耽る、吾人は敢て之を贅澤なりと言はん、何となれば多くの同胞は煩悶を起すの餘裕すら無き者なれば也、嗚呼諸君、クリスチアン活動の部面は今や新たに諸君の眼前に開展しつゝあり、何ぞ速かに蹶起して此に其一身を投ぜざる

寄附金十萬圓の倫理

ハアヴアド大學院　金子喜一

△石油王ロックフェラーが今回十萬弗の寄附金をアメリカンボード外國傳道會社へ申し出したことに付て、大分やかましい議論が湧きだした、一週間前から新聞紙や宗教家の間には彼是の說もあつて、今やボストンに於ては宗教家會議を開いて、此寄附金の諾否を議するに至つた。

△反對する者の言ふ所は、つまりロックフェラー如き社會道德をきづゝけ、國民生活を無視してまで作り得た所の財を受納することは、一個の傳道會社としての面目にかゝはり、ひいてはキリスト教道德の標準を下げる所以である、寄附金は貴いが傳道會社の精神はなほ更ら貴い、吾らはぬすびと同樣の金を貰ふてまでも傳道せねばならぬかと主張してゐるらしい。

△贊成する者の側では、寄附者が如何なる方法を以てその財を集めたかを問ふの必要はあるまい、若しロックフェラーが疑はしいとならば他の幾多の小ロックフェラーを見出すに於て敢て苦しくはない、若し寄附者の情實を穿ぐる限りに於ては、吾らは今日の世に於て、所謂正直な金を見出すに甚だ困難である、ロックフェラーにして、無條件を以て、その金を寄附したとすれば吾らは喜んでそれを受けいれべきである、惡しき金を善用するのが吾らの天職であると辯じている。

△なるほど双方の主張に多少の依る所はあるが、つゞめて曰へば比較的の問題で、ロックフェラーの如き場合はその最も著しいのであると曰ふに過ぎぬであらふ吾人は昔時ポーロがなしたやうな所謂自給傳道を貴ぶ者であるとは曰へ、而も寄附された場合に於ては、敢てそれを排するの要はなからふそれを善用すると惡用するとは、全く傳道會社の精神と氣力に存することで必ずしも寄附者のかゝはる所でない。

△吾人を以てみれば之は全く馬鹿々々しい爭論である一歩を進めて考へてみると、抑も此議論の起りし所以の動機に付て多少觀察すべきことがないでもない、つらつら近代文明の傾向を見渡せば、何事も多くは器械的に流れて、宗教でも、教育でも、慈善でも――その最も精神的であらればならぬ是等の者が皆な物質的となつて了つた。

△教育と曰へば大きな建築物や廣い敷地を意味し、傳道と曰へば立派な教會堂や音樂を意味してゐる、而して肝要な教育家と宗教家に付ては少しも思慮を寄せぬのである、今日米國にありて學校や教會の校長、教授牧師等は果して、その學校、教會の建築物より立派であるか吾人は直に然りと答ふることが出來ないのである

△學校教會の校長牧師の人物がその建物よりも安價であると曰ふは、甚だ今日の教育家宗教家に對して失禮の言ではあるが、吾人は不幸にして彼の立派なる建築物を見る時、而してその比較が彼等の人物に及ぶ時に於て、吾人は此の眞理を告白せざるを得ぬ、彼等に於て教育と傳道との重なる要素は建物や寄附金でなくて、寧ろその人物の如何に依ると曰ふことを認めていぬ。

△であるから彼等の教育や宗教は、器械を作るに足り形式を作るに足りて而も人を作るに足らぬのである、物知りを作ることは出來やう、人格を作ることは出來ぬのである、學問を作ることは出來やう、品性を作ることは出來ないのである、彼等は器械の製造が目的であるからして、先づ器械からはじめる、建築からはじめる、寄附金募集からはじめる。地面の買いによりはじめるのである。

△かくの如くにして一個の帝國大學は起つた、一個の女子大學は起つた、而も彼等は器械製造以外果して何者を作りしか、何物を作りつゝあるか、これを他の傳道會社に見よ、教會に見よ、吾人はその等しく器械と形式の製造に他ならぬを認むる者である、而して此形式萬能主義より起り來る結果に付て考ふるならば、吾人は最も明白に此の寄附金の倫理なる者を知ることが出來ると思ふ。

△先づ此形式偏重主義の第一産物としては、物が人より貴くなることである、教育家が學校を支配するでなく、牧師が教會を支配するでなくて、却つて學校の建物と教會堂とが彼等を支配してゐるの奇觀を呈するのである、否な學校と教會とを建てた金が彼等を支配してゐるのである、彼等が頭をさげて貰ふた所の寄附金に依りて成れる建物は彼等をして一生その前に頭をさげしむるのである、近い例は日本に於ける宣教師學校と教會とを見れば分る、彼等の學校に獨立心なく、彼等の教會に自尊の精神なきは是を以てである、啻に彼等のみでない、見よかの滔々たる世間の教育と宗教と。

△吾人はかくの如き觀察點から考ふる時に於て、ロックフェラーの寄附金諾否の爭論は、假令へばそれが一種の偏狹主義とは曰へ――少くとも時代の形式偏重主義に對する反抗的自覺として寧ろ祝すべき現象であるまいかと思ふ、金が教育を支配し、宗教を支配する時代にありて、寄りに金を受くることから少しく考へはじめたのは、慥に一段の進歩と曰はればならぬ。

△然らば吾人は此時に於て彼等が今日苦みつゝある形式偏重主義の結果は、彼等自らの求めた所で、決して寄附者その人の罪であらぬてふ一事を了解して貰ひたいことである、彼等は寄附者の罪を數ふる前に、先づ自らの宗教教育に對する態度を深く考へて貰いたいのである、寄附金諾否の問題の倫理の如きは從つて明白となると思ふ。――四月五日。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●地主大王

深尾　少翁

△只見る一望限りなき武藏野の中心、北の霞が浦を兄と見て、埼玉縣北葛飾郡の東邊は、昔し一帶の池沼にして、眞菰刈る翁の宿もいと稀なりしといふ。さるに一度び新利根川、庄內川の開鑿せられてより、此地の汚水を流し去りしより、先見に長けたる奸人の、開墾盡力を名として附近の土地を併呑せしため、新たに出來し耕地は、多くは彼等の爲めに壟斷せられて甘きに集ひ來し百姓等は、此處にも開きし口閉ち兼ぬるに至りぬ。

△金杉村に飯島俊久といふ地主あり、先代までは、門より入り來る人民に下駄を脫がせしといふ程、タイしたる身代にて、此一家にて所有する地所は、殆んど金杉全村の二分の一近く、反別にして凡そ百町歩を占むるといふ。此の小さき、百戸に足らぬ村落に於て、百町歩の大地主が如何に羽振りよきかは、想像に難からず。かくて此の憐れなる小村落は、地主一分自作農二分、一坪の地所もなくして小作する者七分の多數なり。此の七分の小作人は、或は器械の如く、或は蚯蚓の如く、踏みつぶされ、押しつけられつゝ只働くより外には知ることなし。

△今より八十年ばかり前、雨ふり續きし結果として此地に收穫の皆無なりしこと十三年間引續きしといふ。江戸、庄內、兩川の間に挾まれし狹長の此地が、年々歳々水害に苦しむは、今も尙は昔の如く地の養分は雨毎に流し去らるゝを以て、毎年一反歩に付き四圓の肥料を入るゝにあらずんば一石六斗乃至二石の收穫すら覺束なし。此の如き手數極まる土地なるを以て、一反の地價僅に十二三圓に過ぎず。而して驚きたるは、此の地の小作料が一石といふことなり。庄內落し(古川)の西岸に在りては、地價六十圓乃至八十圓なるに、尙は小作料一石に過ぎず。かゝる横暴を逞うして人民を苦めつゝある飯島が取得は、毎年千俵に達すといふ。

△小作米の取立に就て一の巧妙なる方法あり、之の檢見といふ。年の不作なる時に當り、小作人が小作米の減納を哀願する者あれば、地主は先づ人を遣して其作柴を檢し、最もよく實りたる處一坪を刈取りて其籾の量を試む。もし不幸にして一八合二勺あれば、小作人は通常の如く一石を上納せざるべからず。常さへ憐れなる勞働者の所得は、此時は只藁ばかりとなる。二日三日の雨をだに氣支ふばかり排水惡しき地とて、勿論米の後に麥といふこともならず、結局は小作人の損失に歸するより、彼等は成るべく地を借りて作らぬ工風をなせど、一旦借りたが最後一部の土地を返上せんとすれば『よし、さらば、一部といはず、宅地も菜園も皆同時に返却せよ』といふ脅喝に、割に合はぬ土地も作らねばならず。據ろなく、地は瘠せ次第、稻は育つだけ、と自暴自棄に陷るは自然の勢なり。

△一方には百町歩の地所を專有して殿樣氣取と出掛けたる結果、此村には十町歩の土地すら有する者は僅に二戸のみなりといふ。而して更に憤慨に堪へざるは、金杉より千葉縣の野田に渡らんとする者は、飯島の地面と飯島の舟とに依らざるを得ざる事也。恠しむべし縣道は金杉に入りて忽然として消滅し、そこに飯島の道路と渡船場と、如何にも恩惠を與ふるらしく現はれ出づるなり。

△讀者諸君は此の悲慘なる農民が如何にして生活するかを訝るなるべし。彼等は農業の少閑を偸みて野田町に入り込み、僅かなる賃金と南京米とを得て歸るなり。あゝ田園生活、其名は美なりと雖も、飯なく、衣なく、山なく、木なく、花なく、鳥なく、而して人生なき――予は敢て人生なしといふ――金杉の無趣味なる生活に、彼等は實に能くも耐へ得るもの哉。

●女性犯罪の兩面

（平民社婦人講演にて）　白柳　秀湖

由來、精神上の問題を、單に一片の統計にのみよりて歸納論結するは、理法を誤れるの甚しきものと云ふべし、されど余は玆に本題の研究に際し先づ各國政府の調査になれる犯罪の統計を引かんか。

世界を通じて婦人犯罪者の數は男子に比して僅かに其五分の一位に過ぎず、其原因は實に吾人の常識によりて明瞭に判斷し得る處なれど、玆に尤も注意すべきは、歐洲北部と南部とに於る婦人犯罪者の數に著しき差異ある事也。南、伊太利に於て犯罪者中、婦人は僅かに百分の九なるに、北、英吉利に於ては百分の十七乃至十八を占む、希臘に於て、一八八九年の調査によれば、五、〇二三人の犯罪者中、婦人は僅かに三七人なるに、スコツトランドに至りては、一八八八年に於て百分の三七より少からず、猶年々增加の兆あり、英國に於ても一八七六年頃までは百分の二十の多數を占めたりき。

此の如き南北の差異は何によりて來る乎之を以て直に南部婦人は道德的にして、北部の婦人は、不道德的なりと斷するものあらば之甚だしき滑稽なり。北部婦人の犯罪は常に、竊盜、殺人、虐待等、其性質極めて兇暴なるを以て、法律に抵觸して政府の統計に上る事大なり、南部婦人にありては、姦通。墮胎、淫賣等、常に人格的にして其多くは法網を免れて、裁判處の問題となるもの稀也、冷酷なる人の世の法律は前者に嚴にして後者に寛なりと雖も、上帝が最終の審問に決するの日は北部の婦人必しも、南部より不道德的なりと云ふ可らず。

沙翁の作に現はるゝジユリエツト姫は伊太利の美人也、春宵香霧の園に路を失して甘露に昏醉するが如き想あらしむる其人の情緖は實に南部の模型に非ずや、コーゲリヤ姫は英國の佳人也、雪雨ものすごき夜を裸美人が荒馬を馭して野末に立てるを見るが如き想あらしむる其人の性格に、實に北部の標本也、

南部の婦人は一般に隱退的にして北部は活動的也、隱退は人格の犯罪を多からしめ、活動は兇暴なる刑法上の犯罪を造る

之を我國に比較するに南歐の婦人は我都市の婦人の如し、吾人は長屋生活の世話女房が、終日長火鉢の傍に安座して煙草くゆらすを見、其子女が不相應に着飾りて遊藝の師匠に通ひ、『左團扇で贅澤の間食』を無上の光榮とするを知れり、上流社會に於ては全く怠惰安逸只男子の私有物となり野性の奴隷を以て甘じつゝあり、茶器を弄び、小人を近け、猜疑と嫉妬とに日を暮すは彼等の常態に非ずや、試に三越白木屋の店頭に立ち婦人が奢望のあまり發し來る單句を聽け、其乞食根性を表白せる千萬無量の哀韻は其中に籠れり、恐るべきは女性の虛榮心にして、男子を驅りて墮落の淵に陷らしむるや實に多大なり、怠惰座食はそれ自身罪惡なると共に、幾多罪惡の原因をなすもの也、佛蘭西の人口減退問題の如き、實に隱退的婦人の罪惡の尤も現著なるものと云ふべき也

北歐婦人の生活は、之を我田園の婦人の狀態に比較すべし、共に社會的活動的也

京に花を賣る大原女を見よ、悍馬を御する東北の女を見よ、地引網をなす漁夫の女房、地突きに賃を得る土方の妻を見よ、北歐に於て婦人の職業の劇しき實に之以上なり、之彼等に刑法上の犯罪多き所以也、殊に近世機械工業の結果として起れる、經濟上の革命は多く婦人勞働者を作れり、職業を求むる老處女を産めり、此の如くにして婦人は男子との競爭渦中に放擲せられて、非常に悲慘なる運命に陷れり、今日の婦人が職業を社會に求むるは之婦人の獨立に非ず解放に非ず、資本制度が婦人を荒山野に捨てたる也、吾人は一日も早く資本單位の社會を打破して、男女の經濟的從屬關係を革めざる可らず

諸君！　婦人諸君！　諸君は其隷屬的地位に甘んじて、隱退的生活を送るも、出で、社會に男子と職を爭ふも前途は竟に暗黑也、右せんか左せんか、一點疑惑の感想に煩悶するものは、乞ふ來りて社會主義の福音に聽け。

死せる道德よ、死せる宗敎よ、死せる藝術よ、『我世の夜は永し』此暗黑の幕を開かんとする秘密の鍵は社會主義也、吾等が唱ふる所のあまりに『物』と『力』に傾けるを云ふ勿れ、鍵によりて開かれたる新天地、吾人はそこに平和の光美しき常世の春に遇ふべき也。（完）

△田岡嶺雲著『壺中觀』發賣を禁止せられたり、吾人は其の書中記す所の果して何事なりしかを知らず、然れども內務省一俗吏の見解に依つて、堂々たる著述家の筆の自由が奪はるゝを見て、深く其危險を感ぜざるを得ず

新曾のお釋迦樣

そろり

此間の月曜日は、一月遲りの四月八日。友人通阿彌に連られて、仲仙道わらびの在の、新曾のお釋迦樣へ參詣とは、我ながらサモ奇特であつた。

一行には福園もあつて、僕の外は皆な若手ぞろひの五人男。ずらり田圃の花道に列んだ處は、隨分タンカを切つて、宜しく渡りぜりふでもあり想に見えたが、何がさて今にも泣出し想な空の色と、道の惡さに閉口して一言もなく、停車場から小一里を難儀なおひろい、轉ばぬ樣にとお互ひに掛聲、辛ふじて着たのがお約束のお釋迦樣、お別當は日蓮宗の妙顯寺。

昔しお祖師樣が主義の爲めに群小の迫害を蒙むり、北越へ流されるとき此邊を通行して、わらびの城主須田殿の夫人の難産を解脫させた功力に由り、この寺を建立せられたとの緣起がある想だ。

此寺內に妙壽庵と云ふ庵室があつて、庵主は甚はだ世なれた老尼で、參詣人を深切に好く慰さめて呉る。時に此庵の別間を見ると、床の軸に故呼阿彌の筆の降誕會を掛けて、その讃は今日の通阿彌の筆「入貫の飛直たふとし初がつを」と書いてある。

新茶にカキ餅、心のどかに時鳥を聞いて居たが、ふとヤツて來た風來の一老僧あつて、これも我々を慰さめ顏に種々なる佛ぼさつの有難話し「イヤ何樣がおエラいと申した處で、わしやお釋迦樣ほどエラいお方はあるまいと思ひまする。世界に稀なる大國の王樣でぬられたお方が、世の爲め人の爲を思はれ、其お國は申すまでもなく――妻子珍寶及王位――までも捨られて、三世の敎主と成られたとは如何でござる。詰り自分さへ好ければ可い、人の痛さや苦しさは三年でも堪らへると云ふ者に比らべたならば、能登の守と鼻ツ紙の違ひがあつて、どふ思うてもエラいお方に相違ないと信仰して居ります」など眞面目に語る。

少し喫んだ茶が腔に落ちつた感じた處に、又たお百姓が一個ふらりと來て「旦那方ア東京でやすかい、能うお參りでござりやした」と緣端に腰を卸した奴。之もまた今年の麥作話しから引續いて語る「東京の衆でも田畑をお買なさるなら今の中だアもし、若えモンが皆いくさに征きやすので、段々ハア作手がれえカンで、それに何ちや敷ちやと稅ばかり多く取られやすのンで地面を持つて居ても割に當ンれえから賣飛す者が多ござるちや。旦那方も今の中に、此邊の田地を買うて置たら、後にはウンとこさと儲かりやして、金のヤリ場に困りやせう」と他愛なく一ツ笑ふ。

是らの話しに、いよいよ鶯の句の飽飼めいた感を增したが、成程それもソウだんべえ、それでは己も四五錢がトコを買うべえと早速極て、歸りに僕の買うて來た田地が當代の稗蒔一鉢、嗤ツかもれた。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●通俗社會主義

ブラチフオード氏原著　堺枯川抄譯

(十三) 自由競爭論

古い經濟學者は頻りに自由競爭の必要を說いたもので、今でも後生大事と其の古い學說に嚙ついて居る人が澤山ある。そこで其の自由競爭とはドンナものかと云ふに、何でも人間は自由に競爭せねばイケナイ、平和よりは戰爭が善い、社會は個人の嚙みあひに依つて繁昌する、隣人と助けあふ樣な國民よりも、隣人を踏み仆さうと掛つて居る樣な國民の方が、よほど幸福にもなり、又よほど金持にもなると云ふのです。

丁度それを喩へて見れば、二人がゝりで車を坂に引きあげようとするのに、一人はそれを押しあげ、一人はそれを押しおろすのと、二人一しよに力を合せてそれを引きあげるのと、どちらが善いかと云つた樣なもので、初から話になつた譯ぢや無い。今一つ喩へて見れば、玆に芝居小屋に火事が起つたとして、其時、見物人が只ワイ〳〵と押しあいへシあひして、謂はゆる自由競爭をやつたらドウです。狹い入口はそれが爲めに押し塞がれてしまつて、幾人も出る事は出來ないで大勢の死傷者を出だす事になるでせう。それよりか皆が申し合はせて靜かにして、順序よく徐々と出るならば、皆が無難に助かるかも知れません。更にモ一つ喩へて見れば、玆に百人の間に百斤のパンがあるとして、其百人が謂はゆる自由競爭をやつて、我れがちにとパンを奪ひあひ、或者は幾つも幾つも迚も食ひきれぬほど摑み取り、或者は一つも取り得ぬのみか、甚だしきは押し仆されて踏み殺されたとしたらドウです。餘んまり馬鹿げて物も言はれますまい。初から競爭さへしなかつたら皆が一ッ宛のパンを得られたのに。

自由競爭とはコンナ馬鹿々々しいものであるのに、それをナゼ有がたがる者があるかと云ふに、チョットこんな事からしてツイ考へちがひをするのです。

例へば鐵道にせよ、汽船にせよ、煙草店にせよ、劇場にせよ、ビール會社にせよ、幾つもの同業者が競爭をして居る間は、品も善し、値も安し、客の扱ひも親切だが、競爭が止んで獨占事業になると品は惡くなる、値は高くなる、そして扱ひも粗略になる、そこで世人思へらく、こりやドウも自由競爭に限ると。

然し、自由競爭を止めるのは必ずしも獨占事業にすると云ふ事では無い。自由競爭を止めて眞に人民の組合事業にすれば、決して品が惡くなつたり、値が高くなつたりする筈は無い。組合事業と獨占事業とは全く違ふ。組合事業は人民が互いに助けあふので、獨占事業は少數の人が多數の人を掠奪するのである。

例へば幾つものビール會社を合併して只つた一つの大會社にすれば、それは獨占事業となつたので、幾ら利益は多くなつても、儲けるのは其株主ばかり、其ビールを作る人と飲む人とは何の利益をも受けはせぬ。然し其の幾つものビール會社を合併して之を公有事業(即ち人民全體の組合事業)とするならば、幾つもの會社が別々に製造した時よりも、品は善くなつて値は安くなるに違ひない。即ち其利益は人民全體が受ける事になる。早い話が郵便、電信、電話等を御覧なさい。あれが若し幾つもの私立會社に依つて扱はれて居たならばドウでせう。賃錢はモット〳〵高くて、そして色々な不便があるに違ひない。近來日本では、煙草の專賣、鹽の專賣などが始りました。今に砂糖の專賣、酒の專賣も始まりませう。伊藤博文さんは米の專賣をヤルが善いと云ひました。是りやドウしてもソウあるべき事で、小さな會社や商店が別々に小仕掛の設備として、めい〳〵莫大な廣告費を使つて居ては、迚もヤリきれるものでは無い。そこでそれを一手に合併して、無駄な費用を省いて利益を大きくしようと云ふ事になるのは當然です。此頃日本の新聞に見える電力會社の合併、紡績會社の合併なども、皆此の必要から來るのです。然し、是等の合併や專賣は、幾ら冗費が省けて利益が大くなつても、其利益は株主の配當や政府の軍備擴張に取られてしまふので、一般人民は其利益を蒙る事が出來ませぬ。現に煙草が專賣になつて、廣告をせぬ丈でもドレほどの利益か知れぬのに、煙草を買ふ人民は矢張り同じ程の代價を拂はねばなりませぬ。そこで今の政府の專賣や大會社の獨占を今一段進歩させて、眞に人民全體の利益を目的とする公有事業とせねばなりません。

ツイ是は譯者の筆が滑りすぎて、原著書の云はぬ事まで大分に書きましたが、何せよ斯う考へて見る時には、自由競爭論は箸にも棒にも掛るべき者ではありませぬ。

、それにモ一つ自由競爭より生ずる最も恐るべき害毒は、恐慌と云ふ事です。世間の景氣が善くなると、資本家は皆それぞれ大勢の勞働者を雇入れて事業を始めだす。彼等は互ひに激烈な競爭をして居るのだから、相談なんど仕處の段では無い、我も我もと無暗滅法に品物を作りだす。そこで暫くすると生產過多、品物が多すぎて買入が無いと來る。今までの上景氣はドコへやら、世間には不景氣々々々、恐慌々々の聲が響わたる。事業は忽ちにしてバタリと止まる、工場は頻々として閉鎖せられる、勞働者は續々として解雇せられる。こんな分りきつた事を必ず何年目かには繰返し繰返し仕て居るのが、今の世の有樣です。是といふも皆自由競爭といふ產業界の無政府の結果です。

●平民社より

枯川生

▲編輯局の僕の机の側の壁に英文の落書がしてある。と云つて人がしたのぢやない、僕がしたのだ。曰く、His mission was to be an old friend. 之を反譯すれば『彼れの使命は舊友たるに在りき』と云ふのだ。是はイツやら神戸クロニクル新聞を見て居る中、ヒョット小說の中に此句が見つけて、何だかヒドク氣に入つたので、ツイこゝに書きつけたのだ。誰か僕と同じほどに此句を喜ぶ人があるか知らん。

▲四五日前、加藤時次郎君の內から小猫を一疋貰つて來た。あんまり大勢の人にイヂられるので少し瘦せた樣ではあるが、チョイ〳〵とじやれはじめて中々愛らしい。但し鈍ひな人もある。誰やらは顏が似て居ると云て此猫を『フイグチル』と呼んだ。

▲幸德家にチヨマといふ犬が居つた。瓢悍い元氣な若者であつた。それの仲親は隣家に飼はれて、毎日親子づれで往來して居た。處が先頃其隣家の住人が其親犬を連れて遠方に引越してしまつた。さあチヨマが力を落すまい事か、其の空家のまはりを廻つて見たり、方々と其近處を探しまはつたりして、妙な心配顏をしてチツトも落ちつかず、是までになく人を吠えたりなんどして、飯も碌々食はずに氣の狂た樣な姿であつた。其中隣家に又人が住み込んだ。チヨマは先のが戻つて來たとでも思つたらしく、樣子を見にと云ふ樣な風で早速と出かけて行つた。處が先方では怖そうな犬が來たと云ふので、棒か何かで物の見事にグヮンと一つ食らはせた。それ以來チヨマは全く氣が拔けてしまつて飯も食はずにトウ〳〵死んでしまつた。犬と雖も矢張り情に生きて居るのだ。

▲今度出版した『革命婦人』は、ドウかして多くの婦人に讀んで貰ひたい。溫良貞淑、しとやかで、おとなしくて、やさしくて、すなほで、何でも只ハイ〳〵と云つて居るばかりが婦人の美では無い。婦人最上の美は即ち愛で、愛は即ち力である。力であるからには强味が無くてはならぬ。吾人は『革命婦人』に於て、愛に充ちたる强き婦人の生きたる手本を示したのである。

▲福田、竹內、松岡の三婦人は、昨日巢鴨に面會に行つた。西川君は非常な元氣で、顏なんども善く肥えて居たよし。幸德君には病室で面會を許されたが、何分下痢がまだ十分に止まらぬので、大分瘦せて居るよし。然し體が稍快復したと云ふだけで、別に病氣がある譯では無いから、そんなに氣遣ふには及ぶまいとの事。是はお醫者の說です。

▲共產黨宣言公判は去十二日開廷の筈の處、幸德君の出廷なき爲め又々延期となつた。

▲東北傳道行商の荒畑君は水戸で車のパチをこわし、其の修繕の爲め止むを得ず、一昨汽車で歸つて來た。近日更に出發の筈。

▲深尾、原子の二氏は今日午後府中町に赴いた。それは曩に三十日間の領置を命ぜられた傳道行商の車を受取に行つたのだ。御上と云ふものはエライ手數を掛けて吳れるものだ。(十六日午後記)

●運動基金募集

平民社の營業は甚だしく政府の妨害を受くるに係はらず、案外に良好なる成績を示せり、然れども今日の事情の下に於ては、毎月少からざる不足を訴へざるを得ず、況んや國光社に對する器械沒收の判決(每月五十圓づゝ五ヶ月)あり、況んや共產黨宣言の罰金二百四十圓を課せらるゝの恐あり、吾人は止むを得ず茲に同志諸君に訴ふ、諸君夫れ之を諒とせられよ

(五月十日より十七日までの收入左の如し)

△金二圓 神田 藤田四郎氏
△金五十錢 目白 某氏
△金十圓(選擧費指定)日本橋 某氏
△金五十錢(第二回) 芝愛宕町 武內常電氏
△金一圓 本所 同志會
△金三十錢 日光 山本清華氏
△金四十錢(第十一、十二回)銚子 秋村氏
△金五圓(第二回) 銀座 佐々木十九氏
△金三十錢 本鄉 十九氏
△金二圓 米國紐育 川島化碌氏
△金二圓 同 澁田市郎氏
△金五十錢 無名氏
△金一圓 柴田妙子氏
△金一圓 無名氏
△金七十五錢五厘 白金 上司響子氏
△金一圓 無名氏
△金二十錢(第一回) 足利 金子豐吉氏
△金三圓 延岡常太郎氏
△金二十錢 無名氏
△金四十錢 無名氏
△金二十五錢 無名氏
小計 金三十二圓三十錢五厘

平民社同人編

革命婦人

價十二錢(郵稅不要)

吾人は敢て此の小冊子を溫良貞淑なる日本婦人の膝下に呈す(五月十三日發賣)

▲革命婦人目次

第一章 ブレシコウスキー(肖像入)
(一)活ける革命史 (二)革命運動起因 (三)『人民の中に行け』 (四)一千餘人の大捕縛 (五)眞人を棄てゝ革命運動に加はる (六)西比利亞の十餘年 (七)革命社會黨の創立 (八)『革命の祖母』萬歲

第二章 ルイス、ミツシエル(肖像入)
(一)小學教師より革命黨員となる (二)『我を死刑に處せよ』 (三)善眞なるルイズ

第三章 ウエラ、フイグチル、其他
(一)婦婦花の如き少女(肖像入) (二)西比利亞獄中の烈婦 (三)カラ女囚の飢餓同盟

▲注意 此書籍には價十錢と廣告したれど、製本後になりて實價の意外に多かりしを發見したるに依り、止むを得ず十二錢と改めたり、諒察を仰ぐ

發行所 東京市麴町區有樂町三丁目 平民社
取次所 大阪市中の島田蓑橋南詰 大阪平民社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

同志の運動

▲九州傳道行商日記（五）
（再び熊本市より）　小田頼造

▲四月三十日、雨　終日休息。▲五月一日、雨　野中君と共に朝から市中を行商し、牧師高橋鷲藏、同高橋長七郎等の諸君を訪れ、高等學校に行つて木下三四彦、大川周明等の諸君に面した。聞けば同校の法科ではベラミーのルツキング　バツクワードを英語の教科書に使つてる爲め、其主任教員等三名は先頃來れる文部次官から御眼玉を戴いたそうだ▲二日、晴　此日も野中君と共に市中を行商し、家庭新聞の伊津野滿仁太、熊本めざまし新聞主筆高田次郎、石阪音鋼太、池野龜太郎、山本三饒、井手義久等の諸君を訪ひ、有名な本妙寺を見た。今は同寺内に軍人が參詣してるので憐れな癩病患者も巡査に追拂はれて多くは居ないが、此寺の近郷には今も尚ほ多くの患者が潜伏してるとのこと。我等は社會の健康の爲め人道の爲め速に彼等をどうにか處置せねばならぬ。山本君は小鐵工場の主人兼勞働者で。夜松尾卯一太、高田市郎二君各々其郷里より來訪▲三日、快晴　松尾高田二君と市外にある工業學校、女學校、縣西中學校に行商した。工業學校は其筋から砲彈の製作を請負ふたので生徒等は徹夜して之れを製作してるとのこと。成趣園に遊んで其風景を賞し、砂津で小舟を借りて波瀾かなる河津湖に舟遊を試みた。昨日も一昨日も尾行しなかつたと思つた刑事は朝から尾行し、僕等が舟に乘つて小川を下ると彼は川の土手道を下つて僕等を監視して居る夜停車場に松尾君を見送つた。▲四日、快晴　昧爽起床、好天氣なれば阿蘇登山を思ひ立ち高田君と旅裝して發程し、夏の朝に特有なる霧立ち昇る川面の美を稱しつゝ四里の道路を徒歩して大津に着き、馬車で午後二時頃阿蘇山下の栃木温泉に達したけれど、もう登山には時が遲いといふので小山旅館に泊つた。栃木温泉は箱根五段の湯に似て谿谷の中壁に位置し、下には急湍激流の石に咽び岩を嚙みて騷々の音をなし、上には鬱蒼たる森林の懸崖に繁れるあり。殊に三丈餘の大瀑布の白沫水烟を飛散する跌岩雄偉の光景など寔に心神を爽快にする。此朝探偵は人力車で僕等を追驅けて來た。▲五日、快晴　朝五時過案内人を傭ふて登山の途に就いた。道は高原の中にありて方々に牛馬が放牧されて居る。多い時は千足も出て居るそうだ。此高原の青草の中に可愛らしい菫の花が澤山咲いて居るのを見た時は僕の詩情も動いたのである。熱氣の噴出する爲め一間餘りも土砂を混ぜた水の高く迸しるのを見た。此れから先きは金阪で屢々休んで、とう／＼噴火口に着いた。三年前迄は噴火が激烈であつたそうだが、今は唯地層の斷面間より濛々たる蒸氣を高く數十丈も噴出するのみである。されど熱氣噴出の地下は大沸騰をやつてるらしく、恰も湯釜で湯が煮沸するやうにゴウゴウ鳴つて居る。午前十時半下阪の途に就き、栃木から馬車に乘つて夕方熊本に歸つた。探偵は御苦勞にも一里半の阪道を上つて湯の谷迄尾行した。此日山上往還の途中道連れとなれる青年農夫に主義を說いた。高山の上でも主義の種子は播かれるのだ、夜池野龜太郎君來訪。▲六日、雨　熊本では長く休息したから今日は是非出發しやうと思つたけれど、昨日三里の阪路を上下した後八里の道をガタ馬車で乘り續けた爲め疲勞甚しく、此日もとう／＼休息した。今日は當地の招魂祭日で、流石軍隊熱國家主義の盛んな所だけあつて市中が非常に雜閙した。▲此一週日に於て六十二册の社會主義的書類を賣り二名の同主義者を作つた。

▲東北傳道行商日記（五）
（茨城縣水戸市より）　荒畑勝三

△五月三日、降り頻る雨を冒して土浦の町に行商を試みたが警察が早く巳に手をまわしたので些とも賣れない、終には所構わず寄つては購求をすゝめたが僅かに數冊より賣れなかつた、此の所の熱心なる同志片岡氏が周旋せられたので、主義の運動は全く止むだ。△四日、今日は好晴の天氣なので巡査三名を随へて途々行商し乍ら石岡町に至り旅舍に車を托して市中に行商に出掛けた、懸命に行商したが賣れない事夥しい一青年に購讀をすゝめたら「無罪ですから」と拒絶したが仲々凝つた事を云ふモンダ、警察に赴いて署長に干涉の無法を詰つたら上官の命令で仕方がないと頻りに辯解して居た。夜は近處の錢湯で浴槽の中から浴客に社會主義の說教をした。△五日、柿岡町に同志を訪ふてそれから筑波山に登る積りで出掛けた但し巡査三名依例隨行の事、柿岡に至り市村氏を訪ふたが不在なので小木曾氏を訪ひ厄介になる事となつた、一寸湯に行くにも巡査が附いて來るので近所の人は何事かと驚いて居る夜は此處で演說會を開かふと思ふたが警察が席亭に干渉をして開く事が出來なかつた。△六日、昨夜は隣家へ巡査が三名泊り込むで交替に起きて居た、今朝は部長に案内されて筑波山に登つた嶮徑をよぢて頂上に達せむとする頃暴風吹き起り面を向くべくもなかつた、頂上に達した時雲霧四顧をつゝみ山風寒く肌へに迫つて身は恰かも創世の劫初始めて下界に降つた樣な氣がした、筑波神社の直ぐ下は遊廓だから面白いヂヤない乎、此夜雨を冒して巡査と倶に石岡に歸る、△七日、大雨にも拘はらず巡査は早くから來て僕を待つて居る午前高濱町に讀者を訪ひての歸途一人では僕に敵はぬと思ふてか又一人巡査が車で飛んで來た、午後宿の主人が僕に泊つて居られると巡査が附いて居るので迷惑だからと歸宿を乞ふので不得止、大雨を冒して水戸市に向ふ堅岡へ出る途中の松林で車が覆へし僕は傍のヌカルミの中へ轉がり込むだ、ヤツトの事で西郷地村に至り木賃宿に投ず今日程困つた事はない、△八日、僕の車は老朽である處へ幾度も覆へしたのでペチヤこはれて了ふた、吁々前途尙ほ甚だ遠きに車巳に損す、午後三時頃コヘレ車を曳いて漸く水戸市に入り旅舍に投じた、郵便局から書留郵便を取て歸ると札幌兵營の鈴木兄からの手紙が入つて居た「小生愈々廿日（四日）に戰地に向ふべく…………此寫眞を小生と思ひて傳道行商に御同道被下度…………神は君の如き若き犠牲者を喜び給はむ」僕は手紙を抱きしめて泣いた、吁々兄よ僕は決して兄を忘れはせぬ、兄の敵は屹度僕が取てやる！△九日、朝早くから市中に行商に出掛けた今日の巡査は社の齋藤サンにソツクリ其儘だから面白い、諸々教會醫院學校等を訪問したが一向に賣れない、後に同志若馬の力彌姉を訪ふて左の事實を聞いた、今朝早く警吏がやつて來て叩き起し僕が訪ふても何事にも應じない方が利益だらふと云ひ殘して行たと、故ある哉木の實れない事や、夜は二三の同志を訪問した、△此の一週間に於て二十九册の書籍を賣つた。

▲湘南の五日
原子基

△五月十一日、近頃頭がクシヤ／＼してゐるので、チト氣を晴らして見んと、午後三時品川から滊車で横濱に行つた、曙會の諸兄相變らず元氣なものだ、△十二日、昨夜は田中氏の二階で夜の明けたのも知らずに心地よく眠た、大和田氏を訪ひ晝飯を共にして、それから横須賀行の小蒸氣船に乘つた、船の中で頭が痛んで／＼實に堪えられなかつたが、『理想鄉』を讀んで居たら何時の間にか眠つて了つた、五時半頃上陸して田浦の教會に某同志を訪うたが丁度不在で、暫く經つて歸つて來られた、それからトンネルを潜つて某大工の親分を訪れたら、非常に喜んで、余等の事業を助くべく約された、そこを出で更に渡邊某兄を訪うた、氏は余の親友の弟なので、話はイクラしても盡きないが餘り更けたので余等は床に就いた、△十三日、●●君役所に出るので早起されたので余も負けぬ氣で六時半に床を出た、朝飯後、余も舟で○○に行き某君等を訪れて本を賣つて貰つた、それから又昨日の大工さんを訪問して腹一杯の御馳走になり、多大の好意を謝して其處を出て、某時計店へ立ち寄つて海邊へと出た、見渡せば洋洋として波靜かなる春の海の彼方には、小さな島や房州の山々が、いと美しい、が、耳元に聞えてゐる殺人器械製造所の響や、商人の憐ましき生存競爭の呼びなど聞くと此處は又恐ろしい奈落の底ではあるまいかなど怪しまれる、夕方田浦に行く途中で憲兵に蹤けられたが佐竹君宅で話してゐる最中二名の憲兵がやつて來て余等の姓名を訊問し佐竹君を連れて行つて了つた、余は餘り殘念でランプを消して外に出て了つた、海に映つた月が何とも言はれぬ景色であつた、途中同志に逢ふた、只川氏を訪ひ、それから、木賃宿に行つて眠つたのは一時であつた、△十四日、四時起床、同志の澤山な田浦の村を後にした、多くの幼年職工が眠たげに出勤するのを見て何とも言へぬ感慨を催した、峠を越せば逗子、西の方、靄かと見ゆる富士山や、伊豆を望んでは、そゞろ我が妹の身を想ひ出した、饑つた腹を我慢して鎌倉まで來た、逗子や鎌倉では別莊ばかり鼻について眞に厭になつた、極樂寺から電車で腰越に至り、佐竹氏の保育院を訪うた、一昨日以來探偵や憲兵に脅かされて飯も碌々食つて居られなかつたが、此處でやつと安心してタラフク御馳走になつた、佐竹氏の處から又電車で藤澤に至り、それから汽車で横濱に歸つた、某女學校に古郷の同志を訪うたところ其話に曰く「少しでも社會主義の話を聞きたい、早く女でも聞くとの出來る社會になればよいが」と、それから神奈川町の神奈川亭で演說會に出席した、夜は田中氏に厄介になつて寢たのは一時であつた、△十五日、目が痛くて起きられなかつたのを無理に起きて、二三名の同志を訪うた、午後大同學校に行き支那人の子供等が愉快げに歌ひ遊ぶのを見た、それから田中左司馬君を訪うて三時半の汽車で社に歸つたら今日の演說會がオヂヤンとの事で大きにガツカリして了つた、△此五日間に書籍七十一册を賣つた、同志の同情を謝す

▲横濱社會主義演說會（横濱曙會）

去る十四日神奈川町神奈川亭に於て社會主義演說會を開けり、此地に社會主義の演說會は今回初めてなりしも八十餘名の聽衆ありしは吾人の意外とする所なりき當夜署長の臨監ありしも中田小池大和田原子高畑服部の諸氏無事演了せり、最後に服部氏が熱烈なる四川式雄辯を振つて帝都に於ける元祿衣裳の流行と平民の疾苦に說き及ぶや流石に眠れる平民の頭にも多大の印象を與へたる樣なりき、

▲土佐平民倶樂部の解散

土佐平民倶樂部は政府の干涉により遂に解散の已なきに至れり、吾人は來る五月二十日を以てその最后の會合を催すと同時に日本に於ける社會民主黨設立の第五週年を紀念せんとす、讀者、同志、及び勞働者諸君は五月十五日以後の土陽新聞廣告欄により、奮て來會あらん事を熱望す、若夫れ解散後の同志が更に如何の行動に出づべきかは、吾人既に斷する所なり、天下の同志希くば安んぜよ（幹事）

▲第三回小樽區讀者會（第三土曜）

△同時　五月二十日午後七時より
△場所　碧川宅
△會費　參錢

▲筑後同志會

△處　山門郡柳川町大字西魚屋町報恩會
△時　五月二十八日午後一時より
△費　金五錢

▲社會主義研究會（横濱曙會）

△横濱曙會は毎土曜日午後七時より社會主義研究會を開く、
△會場は末吉町三の四七高畑巳三郎方
△會費なし　來會隨意

●別莊を買ふ人なき乎
（社會黨運動費の爲に）

吾黨同志の一人にして小田原海岸に別莊を有する者あり、之を賣りて其幾分を吾黨の運動費に充てんと欲す誰か之を買ふ者なき乎、若しくは之を賣るの周旋を爲し得る者なき乎、條件左の如し

一、別莊は海岸堤防の上、松林の間に在り、眺望最も宜し、平家（湯殿、物置附）建坪六十坪、地面百六十坪
一、地面一坪約五圓、建物一坪約三十圓、松樹（十本）一本約三十圓、合計賣價約三千圓
一、問合せは平民社內堺宛の事

●今日の會合●

▲社會主義研究會　今日開會の筈なりしも明日は青年會館に演說會もある事なり、餘り集會の重なるも如何と思ひ、次の日曜まで延します

●新刊紹介

▲信州新聞（二）　大きさから、體裁から、カツトから、能くも能く直言に似て出來ました、直言記者が此新聞を見るとホントに兄弟に逢ふた樣な心地がする、直言に同情ある信州の讀者諸君は、無論此の兄弟にも同情のあることでしやう（定價三錢五厘　上諏訪町中町信州新聞社發行）

▲新同胞（初號）　南助松、福川大典二氏の經營に成れる月刊雜誌なり、發刊の辭に曰く「新同胞は天下の勞働者をして、習慣を破て新思想に入らしめ、然れて後は大日本勞働至誠會の機關として、其名と共に、其實を擧げんが爲に發行するのだ」と、蓋し穩健なる理想を以て勞働界を覺醒せんとするものなるが如し、希くは健全に發達せんことを（札幌夕張登川村至誠會）

▲泰西女訓（本田増次郎譯）　英國の著述家ハーデー氏の『婦人の五才』を抄譯せるもの、趣味と教訓とを兼ね備へて凡俗婦人の讀みものたるに適す、今日世に行はるゝ此種の著述中、蓋し最も良好なる者の一たるべし、然れども其思想は猶女子を以て男子の附錄と爲す舊習の上に立てり、將來の新婦人たる者は少くとも今一段高き調子を聞くの要あり（定價四十錢、內外出版協會）

▲母と主婦（齊家叢書第一編）（松山傳著）　著者は二十有餘年前の母の遺訓に基きて此著を成せりと云ふ其志しの清くして厚きこと、感ずべし、只內容寡弱の所少きを憾む

△大日本（一の七）　府下淀橋町大日本社
△明義（六の四）　麴町區紀尾井町其社
△ハカキ文學（二の六）　小石川久堅町日本葉書會
△家庭（五の五）　府下巢鴨村家庭社
△人情（一の二）　日本橋通二丁目裳華房
△無盡燈（十の五）　府下巢鴨村庚申塚其社
△帝國文學（十一の五）　京橋銀座一調書株式會社
△良馬の友（廿三）　靜岡縣濱松町實業徒弟共勵會
△中央農事報（六二）　芝公園全國農事會
△東京經濟雜誌（一二八二）　京橋彌左衛門町其社
△基督教世界（一一三一）　大阪北區中之島其社
△護法（十八の五）　芝區琴平町鴻盟社
△明治農報（六の六二）　芝三田四國町三田育種場
△史學界（七の五）　京橋尾張町隆文館
△經濟新聞（廿八）　日本橋蠣殼町其社
△文庫（廿九の一）　本鄕駒込西片町出版協會
△天鼓（四）　神田今川小路北上屋書店
△國學院雜誌（十一の五）　麴町飯田町國學院
△精神界（五の五）　府下巢鴨村浩々洞
△東洋哲學（十二の五）　小石川原町六哲學館

名士肖像　平民社繪端書

マルクス（近世社會主義の祖）
エンゲルス（近世社會主義の祖）
ラサール（獨逸社會民主黨創設者）
ベーベル（獨逸社會民主黨首領）
トルストイ（露國非戰主義の老雄）
クロポトキン（無政府黨首領）

一組六枚定價十錢
郵税五組まで二錢

名士肖像　平民社繪端書

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

松村介石君著
修養の道程
(警世叢書第六)
價三十錢 郵税四錢

右は小童より大人に至り、大人より老翁に至るまで、凡て人たるもの、心得べき要件を懇説したるもの也。先生の修養談是れ亦た已に世人の知る處、今や更に此編あり。

毎日新聞『家庭』欄擔當記者松山俊君著
母と主婦
價十八錢 郵税共

如何にして子女を育てまた教ゆべきか、如何にして一家を計營しまた整理すべきか、これ母たり主婦たる者の必ず研究し調査せざるべからざる問題たるは言ふ迄もなし。本叢書は之に答へんが爲めに著述せられたるものにして、母親の好侶伴たり。家庭の相談役たるに於て最も好當せる書冊也。

松村介石先生著
萬國興亡史 (五版)
價一圓五十錢

松村介石先生著
歐洲近世史 (訂正三版)
價二圓五十錢

發兌 東京京橋區尾張町 警醒社書店

轉居 吉野省一
門司市門司倶樂部下本庄宅

トルストイ伯著
萬朝報記者 田口掬汀君序
萬朝報記者 落合浪雄君著
悲劇 暗の力
((新刊))

▲四號かなつき美本▼
(定價卅五錢、郵税五錢、郵券代用二割增)

露國に上場を禁止せられ英米に數萬の觀客を集め得たりしは此暗の力なり、最暗黒點の家庭を寫して而も一道の光明を與へたるもの、伯が思想を見る可く伯が哲學を窺ふ可く而して又露國現代の家庭を知り得可きもの此暗の力なり、醜陋を咎むる勿れ、悽慘に驚く勿れ、唯是を忌憚なく直筆して人を墮落の淵より救ひ、罪を懺悔に依つて潔がしめんとする「トルストイ」の心情を見よ

發行所 東京本郷四丁目五番地 文明堂

出征軍人 黒風白雨樓主 大倉桃郎作
小説 琵琶歌

大阪朝日新聞壹等懸賞當選

東西十三の劇場に演ぜられ初版再版忽ち盡く以て本書の内容を知るべし

著者は奉天の激戰に參加し負傷後全快更らに北進せり

鏑木清方 平福百穗 畫
釘装クロス綴 金文字入美本
一册金六十錢 郵税金八錢 郵券一錢五厘 券一割增

三藏の出征!!! 星野の狂氣!!!

華族
- 江島伯爵の御曹子 春麿 花の如き令孃と幾多の三藏との戀仇？
- 花浦子爵家の令孃 菊枝

平民
- 地面持の好色老爺 正次 長男藤摩琵琶好きの貞次…
- 武田正次の妻 お辰

穢多
- 負嫌の軍人荒井の 三藏
- 三藏の妹貞次の妻 里野 破鏡の嘆里野の狂氣

發兌元 東京神田區西今川町二番地 金尾文淵堂出版部
大賣捌 市内東京堂上田屋前川文榮閣 大坂杉本

婦人家庭の機關
すゐーとほーむ
毎月一回五日發行
韓國大擴張……體裁大改良

第三號(六月五日發行)目次
▲新聞記者と其德操。 蓄妾問題。 黒岩涙香氏の戀愛觀。 うぬぼれ男(小説) 結婚と社會の單位。 寶の山(家庭お伽噺)。 鐘樓守日記 其他家庭と衛生、園藝、料理、薔所の友、家庭の樂等ありて白柳秀湖、黒田撫山、佐藤吊薹、篠山吟葉、松下俗川、山澤吻分、はる子、龍城の諸氏毎號執筆
●●●●改正定價一冊金七錢六冊前金四十錢十二冊金八十二錢
大賣捌所 東京 東京堂。上田屋。 神田 中庸堂
發行所 本郷區駒込千駄木町一番地 鳴潮社

文藝評論
天鼓
第四號 五月十五日發行
主筆 田岡嶺雲
毎月一回發行 一部定價金十五錢郵税 半ケ年分六冊郵税共金九十錢

第四號要目
本號より面目一新 露驚樺の鞭撻急に六號文字熱罵大に振へり●非獨逸主義、木村鷹太郎●現代婦人論、三々公子●京都帝國大學、黒旋風●日記の端、泉鏡花●外國語學習法、千葉秀浦●高田實と村田正雄、珀人●淺草の生地獄、把姓星●處女作談、泉鏡花の「夜行巡査」其他數十篇

發行所 東京神田組橋際(電話本局二〇〇六番) 北上屋書店

●神經衰弱 遺精早漏陰萎勃起力記臆力衰退手淫の害 速治療法
●陰莖包皮無痛
●梅毒●りん病●痔疾
●婦人科●せうかち●子宮病●血の道●月經不順
●地方患者は返信料添へ申込む可し
東京市神田區西今川町三番地 愛生醫院

外科皮膚病 梅毒痳疾 外科的婦人科尿道器械的療法
診察 午前九時より十二時まで
東京 新橋際出雲橋 加藤病院 電話新橋一〇二一
院長 獨國醫學士 加藤時次郎
分院 横濱神奈川臺火木土自午後三時至六時 小田原海岸毎月曜午前中

活版 印刷
東京築地
株式會社
國光社
電話新橋 二八九三番
特電話 八八番

平民文庫出版廣告

五錢本之部 一部價五錢郵税二錢 但二部以上郵税不要

- ●社會主義入門 平民社同人編 定價十錢
- ●消費組合の話 石川旭山著 定價十二錢
- ●地上の理想國 瑞西 安部磯雄著 定價十五錢
- ●社會民主黨建設者 ラサール 幸德秋水著 定價十五錢
- ●土地國有論 西川光次郎著 定價十錢
- ●富の壓制 西川光次郎著 定價十錢
- ●經濟進化論 田添鐵二著 定價十五錢
- ●小説 火の柱 木下尚江著 定價卅五錢
- ●小説 良人の自白 木下尚江著 定價卅五錢
- ●革命婦人 平民社同人編 定價十二錢

(以上總べて郵税を要せず)

- ●百年後の新社會 堺枯川抄譯
- ●理想鄕 堺枯川抄譯
- ●ジョン・バーンス 西川光次郎著

發行所 東京市麹町區有樂町三丁目 平民社
取次所 大阪市中ノ島宗是町田蓑橋南詰 大阪平民社

●書籍取次販賣(郵税不要)

- ●社會問題解釋法 安部磯雄著 一圓廿錢
- ●廿世紀之怪物 帝國主義 幸德秋水著 廿五錢
- ●百年後の社會 平井廣五郎譯 六十錢
- ●小説 勞働問題 堺枯川譯 卅五錢
- ●社會主義概評 島田三郎著 三十錢
- ●社會黨 西川光次郎著 十五錢
- ●破帝國主義論 (品切) 廿五錢
- ●產業組合手引 森近運平編 二十錢
- ●青年と生存競爭 安藤兒毛喜著 二十錢
- ●枯川隨筆 堺枯川著 二十錢
- ●我家の犬猫 同上 八錢
- ●トルストイ翁 日露戰爭論 平民社譯 八錢

取次所 東京市麹町區有樂町三丁目 平民社
取次所 大阪市中ノ島宗是町田蓑橋南詰 大阪平民社

婦女新聞合本 一册

第二百一號より第二百五十號までの五十部を一綴とし表紙を付し卷頭には第一號より第二百四十二號までの總目錄を付す
右本社保存の爲め製本したる殘部を發賣す希望の方は前金一圓三十錢郵税は本社負擔にて御送付ありたし(但製本僅少に付き賣切の上は御望に難應候)

婦女新聞編輯局編纂
一名 こども
天眞爛熳
再册出來
▲定價金拾參錢郵税貳錢▲郵券代用一割增

大和田建樹先生編
待宵門下の歌文集
夕月夜
三版出來
▲定價郵税共參拾八錢▲郵券代用一割增

右發行所 東京牛込東五軒町 婦女新聞社

辯護士 花井卓藏
東京市神田區錦町一丁目二番地 電話本局八八三

梅毒 癩病 婦人科
遠地患者には詳細療法を告ぐ
かはかむり無痛手術 包莖五日全治 切開不要
痔 無痛根治
院長專門醫士 一瀨鷹一

內科
●生殖器病專門を名のる詐欺院多し注意あれ
快美減少 遺精 勃起衰弱
神經衰弱 早漏
胃腸病 脚氣 腦痛
東京神田連雀町十八 淡路町通電車萬世橋
診察無料藥價任意●診療午後九時迄
涙紅醫院

辯護士 卜部喜太郎
東京麹町區上六番町二番地 電話番町六二六番

▲本紙定價 一部三錢五厘、廿部前金六十五錢 五十部前金一圓六十錢、郵税不要
▲廣告料 一行十九字詰三十錢
▲注文 は總べて前金に限る
▲郵券代用 にて御送金の場合は必ず一割增とし成るべく五厘の切手を用ひられたし

發行兼編輯人 原眞一郎
印刷人 山田金市郎
發行所 東京府荏原郡入新井村字新井宿二五五七番地 直行社
發賣所 東京市麹町區有樂町三丁目 平民社 電話(本)三二六二
印刷所 東京神田區美土代町二丁目一番地 株式會社國光社 電話新橋特八八、新橋二六九三番

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY